



## 《診療の質》 糖尿病患者の血糖コントロール率

---

### ＜項目解説＞

HbA1c（ヘモグロビン・エーワンシー）とは赤血球の中で体内に酸素を運ぶ役目のヘモグロビンと、血液中のブドウ糖が結合したものであります。糖化ヘモグロビンともいい、血糖値が高いほどグリコヘモグロビンが形成されやすくなりますので、糖尿病の患者様では血液中に顕著な増加がみられます。血糖値は常に変化していますが、HbA1cは濃度が安定しています。

HbA1cの値を調べれば、過去1～2ヶ月の血糖の平均的な状態を知ることができます。正常値は4.6%～6.2%とされており血糖コントロールは、HbA1cが6.9%未満であれば「良」とされ、7.4%未満であれば不十分ですが「可」とされます。

なお、日本糖尿病学会より平成25年6月より、新しく血糖コントロール目標が定められ、合併症予防のため7.0%未満を目標とすると宣言されました。

### ＜当院の実績＞

【平成24年度】	87.0%
【平成25年度】	88.3%
【平成26年度】	85.7%

### ＜当院の自己点検評価＞

糖尿病で最も出現しやすい合併症は糖尿病性神経症で、これは血糖値の異常がある程度続くと出現すると言われていますが、初期であれば血糖コントロールを改善すると、症状も改善することがよく見られ、医師は血糖コントロールの一つの目安として神経症状を尋ねることもあります。また、糖尿病性網膜症や糖尿病性腎症の進行は体質も左右するようですが、やはり血糖コントロール不良の状態が長期間続くと進行していきます。網膜症や腎症はいずれも、ある程度進行してこないと自覚症状がないため、ある日突然目の前が真っ赤になり視野が欠けてくる眼底出血などによって初めて眼科を受診することも少なくないので、網膜症、腎症の定期的な検査は内科医も勧めるところであり、HbA1c値の更なる改善を行っていきたいと考えています。

### ＜定義＞

インスリン製剤か経口血糖降下薬を処方した糖尿病患者のうち、  
HbA1cの最終値が7.4%未満の患者割合

### ＜算式＞

分子：HbA1cの最終値が<7.4%の患者

分母：インスリン製剤または経口血糖降下薬を処方されている患者